

<問い合わせ状況 2023年5月>

院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に5~10件程度の問い合わせに対応しています。5月の疑義照会は11件で、内容は以下の通りでした。



- 用法用量確認 (2件)
- 日数確認 (3件)
- その他 (6件)
 - ・1包化希望 (2件)
 - ・粉碎希望
 - ・販売中止薬の処方

・・・など



薬に関する問い合わせ(患者・家族・施設より)

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。

5月は2件質問がありました。

- 点滴中にふるえが生じた場合、輸液による低体温が生じたことになるのか？
→病状等によっても違うため、一概に「点滴で低体温が生じた」と決めることは不可能。
- 带状疱疹ワクチンの投与間隔はどの程度にすれば良いのか？
→不活化ワクチンの有効期間は9年、生ワクチンは5年程度とされていることから判断する。



薬に関する問い合わせ(院内より)

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。記録してあるDI室への問い合わせは、5月は4件でした(病棟で直接質問されたことは未記載の可能性あります)。

◎がついたものについては回答をDIニュースNo.454に記載します。

- ベゲタミンB[®]錠と同一の処方内容にするには？ → 含有薬剤及びその量を回答
- ◎イバンドロン[®]注(月1回製剤)を予定日より2日前に投与して良いか？
- ◎ラゲブリオ[®]カプセルを投与終了した人に対してベクルリー[®]注は投与可能か？
- ◎ヒルドイド[®]軟膏の処方量上限は？

